

鳥取市は、反差別・人権の社会づくりに取り組む指導者の養成を目的に、「解放大学」を開催しています。

このたび、第六期の全課程が修了し、五十四人が卒業されました。

前期（昨年）は、反差別・人権の実践者から、その取り組みと生き様を学び、「私と人権」私の生き方」を模索しました。そして後期（今年）は、「人権のまちづくり・私の提言」を課題とし、人権の確立に向けて何ができるのかを考えました。

学習は二年間にわたりました



部落問題に関する資料が集められている柳原銀行記念資料館(京都市)を訪れました

卒業・ここからがスタート

「解放大学の一般公募卒ができました」。それはとてもうれしい知らせだった。解放大学で学びたい、いつの頃からかそう思っていた。今のままの自分ではいけないと漠然とした思いがあった。ただ、変わらなくちゃという思いだけがあった気がする。『差別をなくすためには、まず自分が変わる』これは、私に言われていることだと思っていた。

講義を受ける中で、自分が何も知っていないことに気づかされる。知らない世界を見せつけられる。それは、講師の方の生きかたの中に見える。そんな現実があるんだ...と驚くと同時に、憤りを感じる。その現実に向き合ってる講師の方の生き方に希望を見出す事ができる。「私はどうなのだろう」と、自分自身と向き合うことになる。知らなかった社会を知ること、見えてなかった自分を見るということ。それは、つらく苦しい。でも、もう目はそらせない。しっかりと現実に向き合い、自分を見つめて行くことで、差別は無くしていけると思うようになった自分がいる。

同和教育と出会い、解放大学で学び、多くの人と出会うことができた。出会いを通して、これまでの自分が人間関係に壁を作っていたことに気づいた。それでも、どこか躊躇している自分を認めながらも人と豊かにつながりたいと思うようになった。いろいろな課題を解決していこうとする中で、多くの人に支えられ、受け入れられていることに気づき自分と向き合う勇気が持てた。私は、2年間で、人とのつながりの大切さを学んだ。学んだことを私の周りから広げていきたいと思っている。差別が入り込むすきまのない確かなつながりを少しづつ、少しづつ...

解放大学は卒業するけど、私自身は、ここからがスタートなのだと思う。ここで学べたこと、そして、スタッフの方、講師の方、共に学んだ受講生、みなさんに感謝してる。ありがとうございました。

第6期卒業生の感想

鳥取市人権情報センター機関紙「ライツ」より

解放大学で見つけたこと、それは...

たが、道のりは決して平坦なものではなかったようです。

それは卒業式での「人権問題を語る」ことが、こんなにもつらく苦しいものであることをあらためて思い知りました。しかし、一方で自分自身に正直になること、現実を直視すること、こんなにも心が解放されるのだということも実

感じました」という卒業生の挨拶にも表れています。

今期は、事業所などからの推薦以外に、一般からの参加者も募集し、受講していただきました。この人たちの「自発的に学習したい、いろんな人とながりたい」という思いが他の受講生の学習に大きく影響を与えました。

解放大学での出会いを確かなつながりにしていきたいとの思いを忘れずに、今後も、反差別・人権の確立に向けて歩み続けて欲しいと願っています。

次回も、一般からの参加を募集します。「解放大学」にご期待ください。
(財)鳥取市人権情報センター